

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

株式会社豊田中央研究所 生体分子認識プログラム（プログラムマネージャー）

幸田 勝典



出身大学・卒業年度：大阪大学大学院工学研究科 1997年 博士課程修了  
博士論文タイトル：新規抗体酵素L-zymeの創製及びその機能解析に関する研究

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

生物の分子認識・応答機構に関する研究業務

#### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

入社後3年目、奈良先端科学技術大学へNEDOの植物利用合理化プロジェクトで2年半出向。DNAの多重連結に従事。帰任後、代謝酵素や糖化酵素の改変による微生物有用物質生産（ポリ乳酸、バイオエタノール）の業務に従事し、現在は受容体特性に関する業務に従事。

#### ◆そこでのやりがい

研究に対してチャレンジさせてもらっていると実感しています。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

研究分野が多く、分からないことがあれば異分野の研究者にすぐ聞くことができ、自由に意見を交換できる風土がある。研究でも先端～開発の幅を持って業務に取り組める。

#### ◆現在の就職を決めた理由

アカデミックな研究が自分に向いていると思っていましたが、企業研究についても興味があり、研究の幅が広がられると考えたから。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

専門分野以外の知識を交え、広いニーズを見据えた課題抽出、イノベーションにつなげられる研究マネジメント力。

#### ◆挑戦したいと思っていること

バイオと異分野の融合研究またはそのマネジメント

#### ◆社会人として一番感動したこと

自分の業務と社会とのつながりを感じられたとき

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

提案や業務内容が上司にうまく伝わらないことがあった。自分の立場から常に1～2階上の立場で物事を見ることとコミュニケーションが大事だと思う。

#### ◆仕事のプロになるコツ

目標までのGAPを超える原動力の一つは「想い」です。私の課題でもありますが、自分の「想い」を組織・社会の「想い」にどうリンクさせていくのかキャッチボールしながら見いだすことが第一歩であると思います。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

博士課程でサイエンスよりの視点で考え、新しい原理や研究に挑戦しようとする姿勢、構えは養われたと思う。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

発見と学びによる新しい刺激での自己成長と社会進歩への貢献。後者は実現できていませんので夢にもなりますが、そういう意味で研究業務は一つの理想の職業かなと思います。

#### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

生活するため。自由を得るため（限定的ですが）。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

特にありませんが、家にいるときは必要以上に仕事を持ち込まず家族に接することにしてます。

#### ◆将来の展望

マネジメント、支援を含め研究に携わる業務を継続していきたい。

### 「後輩へ」

#### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

自己反省も含めてですが、環境の変化が成長のチャンス

です。色々な事に興味を持って、自ら新しい場所へ首を突っ込んでいってください（私は英語に興味がなかった

ので今苦労しています）。

連絡先 E-mail: e1100@mosk.tytlabs.co.jp

## Interview ②

塩野義製薬株式会社医薬研究本部創薬疾患研究所基盤技術部門

佐々木寛人



出身大学・卒業年度：名古屋大学大学院工学研究科化学・生物工学専攻 2015年 博士課程後期課程修了  
博士論文タイトル：非破壊的な細胞品質評価に向けた細胞画像情報解析手法の構築とその応用に関する研究

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

バイオインフォマティクス技術を活用し、創薬の新規ターゲット探索や創薬プロジェクト推進を行っています。

#### ◆現在の就職を決めた理由

研究環境と社風に大きな魅力を感じました。さまざまなバックグラウンドを持つ研究者が集い、新しい薬を生み出すために協働できる風土と環境があること、基礎研究も重視しアカデミア活動にも熱心に取り組む伝統があること。そして自分自身の研究の知識や専門性をダイレクトに活かして創薬研究に貢献できるチャンスがあること。先輩社員から現在の就職先に関する具体的なお話を直接伺うことができたことが、入社を志すきっかけとなりました。

#### ◆現在の会社・組織の魅力

入社前に思い描いていた通り、研究者が活発にイキイキと日々ディスカッションに励む風景こそが最大の魅力だと思います。薬理・化学合成・安全性など創薬研究のプロ達が部署の壁を越えて一丸となり、サイエンスを楽しみながらも患者さんに一刻でも早く薬を届けることを目指しながら研究に励んでいます。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

長い創薬プロセスでは、さまざまな分野の研究者の協力が必要です。しかし、背景知識や専門領域が異なる以上、すれ違いや前提条件の不一致など困難も多くあります。私は、多分野を融合し、問題解決に取り組んできた経験を活かし、「プロをつなぐプロ」として、データを通じて薬理・合成・安全性など創薬の各パートのプロたちをつなぐことができる研究者を目指していきたいと思っています。

#### ◆仕事のプロになるコツ

新入社員研修で、「守破離」という言葉を学びました。まずは忠実に業務を遂行できるように基本を守り、先輩達の真似をしながら型を作る。そして型ができたら、徐々に自分で考えアレンジしていきながら、自分らしいスタイルを作り上げていく。社会人・研究者として成長していくうえで、「守破離」はとても大切な考え方だと思います。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

私が考える博士力は、「想像力」です。さまざまな状況・想定していない状況に陥っても、火事場の馬鹿力でなんとか打開していく「対応力」、何もない状況から自ら提案し、一から作り上げていく「創造力」、相手の立場を尊重し、意見に耳を傾けながらも自らの意見をきちんと伝える「傾聴力」は、いずれもどれだけ思考できるか、想像できるかに起因すると思います。学生時代は気づきませんでしたでしたが、博士課程での研究室生活で想像力が鍛えられ、仕事のさまざまな場面で貢献してくれていると感じています。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのか？お金を稼ぐ意味とは？

仕事はお金を稼ぐため、という側面も当然ありますが、自分自身が成長できる絶好の機会であると思います。好きなことを仕事にできる環境に感謝しながら、常にチャレンジ精神を忘れず、仕事に励んでいきたいと思っています。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

仕事とプライベートの時間をしっかりと切り替えることです。野球とバドミントンの社会人サークルに所属し、週末は運動する習慣・時間を意識して作っています。また、社会人生活では、体調管理も重要となってくるので、時には無理をせず、思い切って休むことも大切です。

### ◆現在の夢 / 将来の展望

創薬研究者として、自分が開発に携わった薬が患者さんの手元に届く日を夢見ています。また、この先どんな仕事をしていくとしても、「家族に誇れる仕事」をしていくことが、将来の目標です。

### 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
少し無茶だと思える「冒険」をしておけばよかったと思います。私は石橋をたたいて渡る性格だったのでチャレンジできませんでしたが、失敗が許される学生時代だからこそ、挑戦的な研究課題に果敢にトライしたり、行く

当てのない世界旅行などを経験したりしてみても良かったな、と思っています。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

できるだけ多様な価値観を経験し、いろんな人と出会う機会を作って欲しいと思います。研究室生活、留学、学会、飲み会、生物工学会若手会などを通じて、自分がこれだ！と思う考え方、こんな人になってみたい！という人を探してみてください。経験した価値観の数が多いほど想像力は豊かになり、出会えた人達は、かけがえのない「同志」になるかもしれません。学生時代に得た想像力と同志は、心強い一生の財産になるはずです。

---

連絡先 E-mail: [hiroto.sasaki@shionogi.co.jp](mailto:hiroto.sasaki@shionogi.co.jp)